

2. 一般質問

平成30年度第2回定例会議において、以下の3項目について一般質問しましたので、主な内容を報告させていただきます。

1) 産業振興施策について

本市は、約4千事業所が存在し、中小企業が多くを占めています。私の認識では、中小企業の多くは、営業体制が整っておらず、営業活動が苦手です。高い技術は持っているものの、収益に結び付いていないケースも見受けられます。**行政が企業に、もっと能動的に関わり、企業との信頼関係を構築**し、また、商工会や金融機関など関係機関と更なる連携を図ることに加え、大手企業を訪問し、市内企業をPRするなど、新たな販路開拓や、企業そのものの営業力や経営力向上に繋げる必要があると考えます。私は、施策の一つとして、「摂津すぐれもん」をどんどん輩出し、**本市のブランド力を確立することにより、外部の需要をもっと呼び込むべき**と考えます。

地域産業の活性化の為に、行政と企業が相互信頼関係のもと、「協働する」といった「**地域経営の視点**」を持つことが重要であり、地域が自立的に発展して行ける基盤を整え、内発的な発展につながらない限り、有効な産業振興施策にはならないと考えます。

本市の強みを改めて見極め、地域の資源を活用しながら、個性を磨いたり、また、地域の資源と外部資源を組み合わせたりして、もっと本市の新しい価値を見出し、地域産業を発展させて行くことを要望しました。



2) 高齢者の生きがいづくりについて

2025年問題が喫緊の課題となっている中、高齢者数の増加とはうらはらに、近年、老人クラブの加入率減少問題や、シルバー人材センターの運営について、様々な問題が取り立たされております。老人クラブについては、会員数やクラブ数が年々減少傾向にあります。私は、老人クラブそのものの存在意義や魅力が薄れて来ているのではないかと感じています。

今後、持続的に活動する為には、今までのやり方に一定の見直しが必要であると考えます。老人クラブの魅力を知ってもらうことや、事務作業の簡素化、効率化などによる役員の負担軽減も必要です。理想の老人クラブは、「**強制感がなく、気軽に参加でき、魅力あるクラブ**」です。

老人クラブの存在は、**生きがいづくりや、地域コミュニティを維持する上で、極めて重要な組織**です。老人クラブの魅力を高めるべく、本市としても、精力的に支援頂ける様に、要望しました。

シルバー人材センターについては、これからは、「**仕事**」そのものを創出するという視点も重要になると考えます。仕事を作り出して行くことは、若者の就労機会を損なうことなく、新たな労働市場を開拓することにも繋がると考えます。

今後、超高齢社会を迎える中で、「就業を通じた生きがいづくり」にも、精力的に取り組んで頂ける様に、要望しました。



3) 鳥飼地域の活性化について

鳥飼地域に関しては、本市としての位置付けを今一度見直すと共に、グランドデザインを描き、人口減少問題に歯止めを掛けるべきと、私は考えています。その中で、**安威川以南唯一の鉄軌道駅である南摂津駅周辺**が一つの大きなポイントになると考えています。駅前が活性化すれば、人が集まり、必然的に住民も増えます。

本市では、6月初旬に「アトリウム祭」と称し、アトリウム南摂津のオープンスペースを活用した任意団体によるイベントが開催されました。この仕掛けは、鳥飼地域の活性化そのものであり、地域の方々は、自発的に取り組んでいます。

本市が公的な役割として、**南摂津駅前に、「人が集まる仕掛け」を政策的に展開すべき**と考えます。人が集まる「場」は、あらゆる面で元気であり、その相乗効果により、更に人が集まり、賑わいを創出します。私は、鳥飼地域の活性化の為、南摂津駅前にもフォーカスし、高齢者の方々の生きがいづくりや、賑わいづくりも睨んだ施策を投じ、交通環境改善策も踏まえた「**好循環サイクル**」を生み出して行くべきと考えています。

その為には、全て自前でまかなうのではなく、民間施設や機関においても、地域資源と捉え、有効活用すべきです。他市の先進事例も参考にしながら、鳥飼地域の活性化に向け、様々な可能性にチャレンジして行くことを要望しました。



光好博幸後援会とは

「光好博幸」の政治活動を支援し、**会員相互の親睦**を図るとともに、「**市民参加による魅力あるまちづくり**」を積極的に進めることを目的としております。

なお、この会は、特に会費を徴収せず、寄付金や賛助金を持って、運営いたします。皆様の政治に対する想いをお聞かせ下さい。

日常お困りの市民相談、
後援会への入会希望の方は
お気軽にお電話ください。



連絡所 072-650-2833
自宅 072-665-5608